

## （1）災害弱者（要救護者に該当しない各種疾患のある人）対策についての提言

団体名 NPO法人アトピッ子地球の子ネットワーク

（参考）NPO法人キャンパー

住所 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-9-19-207

担当 担当 専務理事/事務局長 赤城智美

電話・メール TEL03-5948-7891・FAX03-5291-1392 [akagi@atopicco.org](mailto:akagi@atopicco.org)

### ● 活動概要

- ・食物アレルギー（アナフィラキシーショックを含む）、ぜんそく、アトピー性皮膚炎、などの疾患がある人の支援を日常的に行っています。
- ・阪神淡路の震災で現地に入り患者の支援活動と義援物資の配布、保健所巡回などを行いました。その後の各地の震災において、患者や災害弱者への支援等を行いました。

### ● 「要救護者に該当しない各種疾患のある人への支援について」

- ・実際の被災地では、義援物資のほとんどにアレルゲン物質が含まれていて食べるものが無い状態をすごす人がいた、疾患は特にないが被災によって衰弱し、一般食が食べられない老人が多数いた。義援物資が食べられない人は、その事実を告げることができず我慢しているケースがほとんどだった。
- ・本人とその家族は、個人的な身体の事情があり、かつ緊急性がないと感じ、「こんなときに困ったことを言っては悪い」という自己規制が働き、ぎりぎりの状況になるまで耐えていた。
- ・こういった状況をおこさないために、避難所に集まった人に対しても、自宅で待機している人に対しても丁寧な聞き取りと、個別具体的な状況に即した対処が必要である。
- ・しかし、聞き取りは多くの場合、限られた人数の保健士が行っており、どの被災地でも緊急性と機動力が鈍かった。
- ・課題を解決するためには、①多くの疾患に対する学習と理解、②疾患をもつ人・発言できずにいる弱者に対する対話と聞き取りの能力の養成を経験したボランティアの育成が急務であると考える。
- ・また疾患のある人が、被災時に経験する可能性が極めて高い事態を想定し、リストアップしておくことも必要であるため、疾患をテーマに活動している市民団体のネットワークの構築や、被災時支援に向けた日常的な準備活動の構築が必要であると考える。

以下は医薬品に関わるサンプル事例（医薬品以外にも様々な事例が想定できると思う）。

- ・食物アレルギーの人がアレルゲンを誤食したときに必要な自己注射（エピペン）がない
  - ・インスリン注射液のストックがなく次の注射までの時間的猶予がない
  - ・口に含んで血糖値をコントロールするための甘いものが手元にない。
  - ・定期的な吸入治療を行っている人の喘息吸入薬を紛失した。
  - ・埃っぽい避難所で喘息発作をおこさないよう予防的にマスクをしたいがマスクがない。など
- NPO法人キャンパーは日本調理科学会と協働して炊き出しメニューの改善に取り組み、実施してきました。また、防災基地を拠点とした「地域防災力向上事業」を埼玉県と協働して実施しています。